

シリーズ：日常管理のノウハウ

第11回 中間的メモとネットワークの重要性



垣下 典永

日常管理のノウハウと言っても様々な分野があるが、多くのノウハウは、何かを行って失敗したこと、あるいは失敗せずにホッとしたこと、又はその方法を用いて良かったというようなことであろう。こういったノウハウはたくさんあったほうが良いが、失敗がそんなにたくさんあっては困るし、そのような機会も多いわけではない。そもそもノウハウは失敗しないために欲しいものである。そのためには自分の経験だけではなく、より多くの諸先輩方からノウハウをうかがうのが最良であろう。

主任者や管理者は、とかく少人数であることが多く、相談できる人が少ない。とすれば、学会や大会等、多くの諸先輩方がおられるところに参加し、どなたでもいいので声をかけ、相談できる方を増やす努力が大切なこととなる。ただ、学会発表等で得られるノウハウももちろんあるが、多くはその方々が得てこられた経験からくるノウハウであろうし、それは公のところではなく、個人的な話としての場合にしか話していただけないような貴重なお話もある。コミュニケーションが大事だ。特に若い方々は、そのような場に臆せず参加していただきたいと思う。であるので、放射線業界の委員等のお話があった時は、進んで委員等になることをお勧めする。委員の方々との交流を図る絶好の機会であると共に、1つの議題に対し、様々な視点からの意見を聞くこともでき、その問題に向き合う時間を作ることができるからである。また、管理面での書類に関して、法定書類や管理用書類は、ある意味、結果の帳簿であって、その帳簿、項目、書式を決めるには、意味がある。その過程のメモやそれまでの中間的な作業を行う書類も必要で、エクセルで作った自分だけの表や、コメント、そして法令の解釈や規制庁の指針等からどのように反映させたのか、等の備忘録メモが本人にとって一番重要な書類でありノウハウとなるのではないだろうか。常に新しい情報も得る努力をしながら、ぜひこのような中間的書類やメモを充実させていただきたい。筆者もエクセル等で作った

中間的表の横に、忘れがちな注意点や、計算式の変更日と理由等の欄を作っている。規制庁の法令の解釈や方針等のメモも重要である。もちろん書けるものもあれば書けないものもあるだろう。また、人に見せられないものもあって当然だと思う。しかし、より多くの方々のメモがあったほうが、ノウハウを広げることになる。そのような知恵の輪を広げるネットワークをぜひ持っていただきたい。筆者も医学系管理グループというネットワークでは大変お世話になり、そこでの情報や意見がとても参考になった。また、様々な委員をさせていただくことで、とても貴重な交流と情報と知識を広げることができた。何よりそこで知り合った多くの人材こそが貴重な財産とも言える。

ノウハウの一般論はこれくらいにして、具体的な例というか、少し気になっているとても基本的なことを紹介したい。

多くの方には当然のことなので、ここで言うこともないと思うが、液体シンチレーションカウンタでスミアろ紙を測定する場合の注意点である。スミアろ紙をバイアルに縦に入れて測定される方を時々見かけるが、液体シンチレーションカウンタの多くは、同時計数回路を用いているため、180度方向に配置された計数管に同時に入った光しか計測しない。

スミアろ紙が縦に入っていると角度によっては片方の光が遮られ、計測しない場合がある。このため、スミアろ紙はふき取った面を上にして、バイアル瓶の底に平らに配置してシンチレータを入れなければ正しく測定できない。とても基本的なことであるが、知らない大変である。こういった基本的なマニュアルというかノウハウ本も必要かもしれないと思う。

その他日常管理の場面で、言わば趣味的なことが功を奏することがある。趣味であれ何であれ、それらの経験や知識も、すべて放射線安全管理につながるノウハウかもしれない。

(京都大学環境安全保健機構
放射性同位元素総合センター)